



いよいよ葬られんとする仲間に別れを惜しめば、ますます資本への怒りが湧きあがる

過半数が坑口統合に反対

新労組員へのアンケート

九割が共闘したい 新労幹部への信頼は一割

＜三川 敏＞

三池労組三川指導部ではこのほど第四次合理化反対闘争をめぐって三川鉱の新労組員へのアンケートを行ない、この結果が集約された。三池労組三川指導部の組合員が一人ひとり新労組員にアンケート用紙を手渡したもので、その範囲は、新労組の中央委員から組合員、坑外から坑内にまでわたり手渡したアンケート(三百通)のうち半数が記入され回収されたものである。

新労組の中央委決定とは正反対

まず、アンケートは「今次合理化提案にあたってみなさん方の率直な意見を聞かせていただきたい」と思い、書きだして各項目がならべてあるが、項目ごとの集約は下記の通りである。

一、入坑経路の変更についてどう考えていますか。
○反対すべきである 五五・三％
○新労組の要求書でよいと思う 一四・九％
○わからない 二九・八％
新労組の中央委員会では宮浦支部をのぞいて坑口統合には賛成だが

たといわれるが、三川支部でも過半数が反対している。

非民主的な新労組

二、新労組宮浦支部委員会で「宮浦支部だけで反対しても中央委員会では多数決で押しきるのでないか」という圧倒的な意見に対して、執行部は「新労組は民主的な組合だからそんなことはしない」と答えています。あなたは新労組を民主的だと思いますか？

○民主的だと思ふ 二八・四％
○民主的でないと思ふ 七二・六％
回答の中で「民主的だ」と答えた者の中でも「形だけ」と書き添えたものが多い。

また「民主的でない」と答えた人の中で「執行部のやることに反対する意見を常会なんかでだすとその人の名前が会社に知れて、その人はこたえられるようになるので意見もいえない」とわざわざ書き添えてきた人もいた。

三、第四次合理化に対して三池労組は可能な限り闘います。そのときあなたは協力しますか？
○協力する 八三・五％
○協力しない 一六・五％
四、三池労組も新労組もともに闘うべきだと思いますが、あなたは？

○そう思う 九一・四％
○そうは思わない 八・六％
五、三池労組のビラや棚の掲示板は読みますか？
○読まない 〇％
○たまに読む 五五・五％
○必ず読む 四四・五％
六、三池労組の話を聞きたいと思いませんか？
○思う 一〇〇％
○思わない 〇％

新労組幹部には相談する気もしない

七、新労組の執行部は現場の問題や悩みの相談のつてくれませんか？
○つてくれる 二八・〇％
○つてくれない 二二・六％
○相談する気もしない 五〇・四％
新労組の執行部に対して「相談する気もしない」のが半数であり「相談のつてくれない」と答えた人とあわせれば七〇％を占めている。

また「相談のつてくれない」と答えた人の中には「たよりにならない」とか「よくわからない」と

八、新労組の組合員は幹部不信とあきらめが強いように思いませんか？
○幹部不信 三三・九％
○あきらめ 二六・一％
○無関心 二九・六％
○信頼している 一〇・四％

新労組の現執行部を支えているものは、まさに会社とわずか一〇％の人びとにすぎないことを如実にあらわしている。

ゆきかけを強化しよう
以上の結果は、第四次合理化を契機に新労組の矛盾が激化していることをあらわしており、いままてをゆきかけを強化しよう。



生きぬく真剣な姿

三池に民泊して――

明治大学学生 小越 優子

(このほど) 石炭問題に関するアンケートをとるために、三池労組の家庭に民泊した明治大学の学生さんから感想文がよりました。その一部をご紹介します。

「ウソが悪い」
記者「飛騨川事故の原因は？」
政府当局「運が悪かったのだ」
記者「四日市で公害せん息でなくった人がいますか？」
政府当局「運が悪いのだ」
記者「国鉄列車の、黄書は？」
政府当局「やはり、ウソが悪い」

「心臓移植」
A「おい君、彼女のハートをものにしたらんたって？」
B「ものにしたことはしたんだが、拒絶反応がでちゃってね」

生活のためにほそくでいって、傍かざるを得ないというところ、人間のかなしさのようなものを感じたのですが、しかしその中で自らの生命を生活を守るために、固結して闘っていることに人間の偉大さを感じました。

CO患者の近況について

「守る会」ニュース「第一号」

でお知らせしました「政府、三井の攻撃のもとで苦しむCO患者」の近況の記者の中で「一部数字が間違っていましたので、つきなおし訂正いたします。」

△長期療養給付者
三池労組員 一一名
新労組員 一五名
計 二六名

△経過観察患者
三池労組員 四六名
新労組員 二二名
計 六八名

△治療を打ち切られた患者
三池労組員 二五八名
新労組員 四二三名
計 六八一名

虐殺の責任をヤミに葬る

ウラに御用学者の動き

△CO闘争の経過△ その二

昭和三十八年十二月九日の三川鉱大爆発が明らかに三井鉱山による保安サボによるものであったがこれに対する責任追及として、災害直後から遺族代表が三井鉱山を殺人罪として告訴していた。

二、炭じん爆発の最低爆発濃度は百二十一グラム(一立方メートル)であり、これに対して当時の集積炭じんは、坑道より一・二メートル高いヘルム上三百十四・四グラム、坑道で十六五・七グラムであり、爆発限界をこえた炭じんが集積されていた。

二、炭じん対策として当然散水や岩粉散布をすることが石炭鉱山

保安規則に定められているが、当時の三池炭鉱ではカローリが低下するからと水をかけないよう指示されており、岩粉も水、水道三時四十分は炭じん爆発である

三、三池闘争後三年間に四十八名の死者が出ており、こと七月から八月にかけて事故がひん発していたが、会社側は保安に関する

ことを確認した。しかし三川救護隊の入り坑が五時二十八分、宮浦救護隊が六時三十二分、四山救護隊が七時五十分であった。

政治的不起訴
ところが昭和四十一年八月十三日になって福岡地方検察庁は不起訴処分を決定、発表した。

この「不起訴」を契機にしてCO闘争への攻撃もかけられてくるのである。